

総評文学賞佳作入選詩作品

坑内現場

元 三川指導部 月 野 貞 信

さきの春闘の機に行なわれた、第十五回総評文学賞の詩部門で、月野貞信さんの詩「坑内現場」が佳作入選。この十六日総評定期大会で表彰を受けた。

月野さんは先に三池炭鉱を退職して、今福岡県警署で働いています。福岡の思いをこめて、同詩をここに紹介します。今後三池から、どしどし入賞者が出ることを祈っておきます。

まだ六月だというのに
湧水五〇度
松跡四五度

排気道に煙り込まれたときから

口への字に曲がっています
入坑口には丸い筒があり
ボトリと一錠
栄養剤が出ます
むらむら口におしこむ者もいれ

ば
壁に投げつける者もいます
木綿の黒シャツを着
ベルトを腰につけ

安全灯を付け
COMASKをつけ
ペンチをさします
キャハンと保安靴の紐がとげて
いないか点検します

日本タオルを頭に
はちまきします
鉄綱をしっかりと握ります
温度計とメモ用紙を胸のポケット
にしまします
おわりに
腰の洋タオルをキュッとしばり
上からポンと叩きます

それでもグズグズしています
職制は「サア、サア」といった
り
「行きマシウカ」といってそく
レバーをかけた機械工が

ウロウロ目の前を歩きまわります
これ以上引きのきかない時間で
す
相棒と立ち上ります

二重扉を開けると
特有の匂いと熱風がムツときま
す
一〇メートル三度
三〇メートル三度
七〇メートル三度
七〇メートル
ここが現場です。

レバーをかけた機械工が

私の肩をつつきます
國がトラフを積んで通ります
B・Cモーターがうなづいていま
す
ベルトがまわっています
ベルトの上は山盛りの炭です
こぼれ炭がチリチリ音を立てて
います

下は微炭で真っ黒です
ベルトのこげる匂いがします
ベルトが片寄りましたのでし
か
B・Cモーターが、電気が走ります
無線機が声をまき散らしていま
す
しゃべっては
CO患者と遺族が
すわりこんでいます

腰をおろします

ゼロ回答に怒っています。
あせは
タオルから首すじに流れ
シャツとパンツをぬらし
キャハンから靴下の足先までと
どきます
あせの道ができます
しほります
しほったあせが緑色に光り
職制が笑い声を浮かべて近づいて
きます

仕事はもう一つみえそうです
握ったスコップを放り出し
腰をおろします

腰をおろします

われは労働条件も変わって行く。
その繰り込み時間は、一番方に引
き続いて繰り込みが早くなる。そ
のため第一番勤務者の各家庭は、
家族全員が、今後は毎日一番
方勤務者のような生活状態に切り
かえることを余儀なくされてしま
った。

昨年十月一日、三川と宮浦
と統合された時点で、すでに四十
部内での石炭採掘計画が
提案された。その内容は、昭和五
十四年度いっぱい採掘を行ない、
石炭層は薄くはなっていくが、
シールド(機)・八メートル
ル・〇・九メートル)、さらに西
ドイツ製のホーベルを入れて採掘
する、との説明だった。したがって
労働者は、統合時点では、今後
一半年半はこの現場で働くのだ
な、とひとまず心にきめたもので
ある。

それがどうだ、十月月たったら
「採掘を中止します」「配転しま
す」である。ジプシーのように移
動を強いられたのでは、生活の基
盤そのものが揺れ動いて落ちつか
ない。

安定職場はどっくに
ジプシー生活押しつける会社

三川指導部 一組 合 員

会社幹部が変わると、鉱の生産
計画まで変更されてしまう。そこ
に働く労働者はたまったものでは
ない。もう、「安定職場の確立」
なんて、言葉だけに終ってしまっ
てゐる。

今回、七月十日より三川第二
上層四十部内の関係係(三三交
代・常一とも)は、六十五部
内へ全員配転となった。ついで
松岡係も年内いっぱい終り、同
じく全員配転となる。

石炭がなくなるから終結する、
というのであれば、他部内への配
転もやむを得ない。しかし、今回
は石炭層を残しながら、「断層」が
多い。硫黄分も五パーセントあ
り」と、それだけの理由で採炭を
中止してしまう、というのであ
る。

保安点検について
執行部に要望する

石 河 哲 矢

四月から五月にかけての連続炭
を申し入れたことを、七月一日発
行の新聞「みいけ」は報道した。
三池炭鉱の災害は、毎年十人近
くの死者を出し、その数倍の負傷
者が出ているようである。

た。そして概略十一項目の不安
全要素を指摘して、会社に改善
三川炭鉱じん大爆発により、四百

断層は、もとより炭鉱につきも

入坑点検が決して無意味ではない
だろう。

執行部の人員減による業務の多
忙さが、それをさせないのだから
が、労働者の命とくらしを守るこ
とを方針として闘う組合の執行部
として、業務多忙を理由とする入
坑点検回避については、疑問を感
じている。あらゆる努力をして、
毎月九日には入坑点検を実施する
よう希望する。

入坑点検が決して無意味ではない
だろう。

執行部の人員減による業務の多
忙さが、それをさせないのだから
が、労働者の命とくらしを守るこ
とを方針として闘う組合の執行部
として、業務多忙を理由とする入
坑点検回避については、疑問を感
じている。あらゆる努力をして、
毎月九日には入坑点検を実施する
よう希望する。

入坑点検が決して無意味ではない
だろう。

入坑点検が決して無意味ではない
だろう。

入坑点検が決して無意味ではない
だろう。

入坑点検が決して無意味ではない
だろう。

入坑点検が決して無意味ではない
だろう。



まるで「むし風呂」
ひどい三川鉱坑底の休憩所

会社
スで作ったのが、狭い間隔で二列
た。
が、炭鉱
に並び、弁当や水筒などのせる机
労働者を
はない。
虫ケラ扱
天井からは、大きく破れたビニ
ールが垂れさがっている。
ことはよ
某日の午後零時四十分頃、暑く
て狭苦しいその休憩所に、なんと
と書かれている。この標語はそ
五、六十人がひしめきあって
保つ義務があるはずだ。

第二上層
片口の休
憩所や、
第二下層

六十五部一片口の総合休憩所の実
態に見られる。
三川指導部電気分會新聞、交
流(六月二十八日発行)によれ
ば「あまりのおそまつさに、アッ
とおどろき、腹が立った」とし
て、次のように伝えている。

第一上層一片口の場合、坑道幅
約六メートル、長さ十五メートル
くらいが目抜き坑道に、椅子は坑
木に板をのせた程度のもので、竹